（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4290400359		
法人名	医療法人社団　淳生会		
事業所名	グループホーム　けやの杜		
所在地	長崎県諫早市多良見町化屋1840番地		
自己評価作成日	令和4年2月2日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、医療法人社団淳生会が令和2年4月に開設しました。国道34号線沿いでJR喜々津駅からも近く、交通の利便性の高い場所にあります。慈恵病院、慈恵病院訪問看護ステーションと連携し医療体制も充実しています。「入居者様、ご家族様が、けやの杜を利用してよかったと喜ばれること」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくりと生活して頂けるよう支援を行っています。コロナ禍での開設で地域交流が困難な状況が続いていますが、コロナ終息後は、地域交流、地域行事の参加、ボランティアの受入れ等を行い、地域に開かれた事業所創りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

医療法人社団淳生会が運営する当ホームは令和2年4月に開設した。医療的ケアが必要な入居者にはホームの近隣にある母体医療機関慈恵病院のほか、同病院の訪問看護ステーションと連携した支援体制を整えており、入居者や家族の安心感に繋がっている。ホームは、JR喜々津駅やバス停から程近い交通アクセスに恵まれた場所にある。入居者最優先（入居者本位）を基本とし、「利用者様、ご家族様が“けやの杜”を利用してよかったと喜ばれること」を理念に掲げ、全職員が理念の認識を深め、入居者一人ひとりのペースに合わせ、居心地よく暮らせるよう支援している。現在、コロナ禍により地域行事への参加やボランティアの受け入れは自粛しているが、入居者の要望に応え、ホーム周辺を散歩したり、近くの神社へ参拝するなど、感染症に留意しながら入居者の思いに沿った支援に取り組まれている。コロナ終息後は地域交流を進める意向であり、地域に開かれたホームづくりへの更なる取り組みに期待が持てる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　1階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念に基づいた支援を行っている。入居者様最優先の仕事をすることで、入居者様ご家族様が利用して良かったと喜んで頂けるよう実践に努めている。	職員一人ひとりが出勤した際に理念を確認し、入居者様最優先の支援について認識を深め、介護の実践に努めている。毎月1回行われる施設会議でも理念を確認し入居者や家族が「利用してよかった」と喜ばれる運営に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流は困難であったが、神社への参拝や散歩中には挨拶を交わしている。地域の方々から季節の果物などの差し入れを頂くこともある。	コロナ禍により地域との交流を自粛している面もあるが、入居者はホームの周囲を散歩したり、近くにある神社に参拝する際に地域住民と挨拶を交わしている。地域住民から季節の野菜や果物(トウモロコシ、スイカ、らっきょう、みかんなど)の差し入れがあり会話するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面配布ではあるが、委員の方々から意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、家族代表、知見を有する者、特別養護老人ホーム施設長、地域住民代表、地域包括支援センター長、市高齢介護課担当者で構成し、定期的に開催している。コロナ禍により、管理者が入居者の状況やホームでの行事、ヒヤリハット・事故報告、地域交流、会議・研修状況等の取り組みを資料とともに郵送又は構成委員へ持参し、各委員から意見を収集して運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告は、メールやFAXで行っているが、相談事は、窓口に出向きアドバイスを受けるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	管理者は市役所へ毎月入居者の状況をFAXで送信したり、直接、市役所の窓口へ行き、ホームの実情を伝え相談する等、日頃から連携を密にしている。コロナ禍の中、コロナ感染症対策のほかケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	eラーニングを活用した学習の他に、身体拘束廃止委員会による研修会を年2回以上実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、「介護の本質」について討議し、身体拘束ゼロの実践に取り組んでいる。職員はeラーニングを活用して身体拘束について学ぶ機会があり、身体拘束に該当する行為を正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止のための指針を作成し、令和3年10月1日より「虐待防止委員会」を組成、身体拘束廃止委員会と一体的に活動している。 虐待の芽チェックを定期的に行ない、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ活用する機会はないが、今後、外部の研修会に参加し、学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に十分な説明を行っている。 リスク等にもご理解・ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置しているが、あまり投函がないのが現状。入居者様やご家族様が気兼ねなく意見を言える関係づくりに努めている。	職員は家族との面会時に入居者の日頃の様子や対話により得られた意見や要望を家族へ伝えている。ホームの玄関ホールに意見箱を設置し、また、入居時には重要事項説明書とともに苦情申立窓口について説明している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表が参加できない時は、管理者が報告を行っている。	管理者は日々の介護実践を通じて入居者支援の現状を把握している。毎日の支援の中で、また、定期的に開催される施設会議等を通じてヒヤリハットや事故報告等、職員間の経験や知見の共有を図るとともに、職員より出された運営に関する意見や提案を集約して母体法人での定例会議に諮り、職員の勤務シフト調整など具体的に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し代表者は、職員個々の状況を把握している。フィードバック面接により、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関する情報を提供し、外部研修への積極的な参加を促している。OJTとoff-JTを連携させ育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、勉強会や相互訪問等の活動は出来ていない。電話等での情報交換により、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を確認し、入居時に本人様から不安や要望をお伺いしている。ゆっくりと傾聴させて頂き、安心して生活できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様から不安や要望をお伺いしている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の思い、状況等を確認し困っていることや不安なことに対して、できることは速やかに実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われる中でも、入居者様に関心を寄せながら一緒に過ごすことを心掛けている。入居者様に洗濯物たたみなどの役割を担って頂くことにより、お互い感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で制限がある中でも、電話や面会時に、入居者様の様子をきめ細かく伝えるなど一緒に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所への外出は控えている。県内の感染状況にもよるが、ご家族様や知人となるべく関われるよう、面会への配慮は行っている。	ホームでは入居者の馴染みの場所や人の把握に努め、入居者が通い慣れた理髪店に行き、馴染みの人と会話ができるよう支援するなどこれまでの関係性を大切にしている。コロナ禍の為、ホームの玄関先で会話したりや面会ができるよう対応し、感染症の防止に留意し、できる範囲で入居者の馴染みの人や場所との関係が継続できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を踏まえ、入居者様同士の関係が円滑になるために食堂の席を配慮したり、会話などの橋渡し、時には、ぶつかり合いを回避したり、仲を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、相談や支援に応じる姿勢を示しているが、関係の継続はできていない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と馴染みの関係を築き、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日々の行動や表現から思いを汲み取り、入居者様の視点に立って話し合っている。	日頃よりホーム職員は入居者一人ひとりと対話によるコミュニケーションを行うことでその方の思いや暮らし方の意向の把握に努めている。入居者本人がその思いを伝えることが困難な場合には、入居者の表情や行動から職員が思いを汲み取り、また、家族と検討することで、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のＢ－３シート（私の暮らし方シート）などを使用して情報を収集し、馴染みの暮らし方に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、排泄状況等により健康状態を把握している。1日の過ごし方を観察し、心身の小さな変化も見逃さないよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けるための個別の介護計画を作成するよう努めているが、まだまだ勉強不足である。	ホームではセンター方式による「センターシート（私の暮らし方シート）」を活用し、入居者一人ひとりから入居者の馴染みの習慣や好み、支援してほしいことなどを引き出し、計画作成担当者が集約して入居者が大事にしたい暮らし方を継続できるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記入し、職員間で情報を共有しているが、PDCAサイクルの重要性に対する理解は、まだまだ不十分と感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物支援等、一人ひとりに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や馴染みの店でのふれあいボランティアの受入れ等は、コロナ禍で実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族様に対し、協力病院へ変更することを説明し同意を得ている。その他の要望等に対してできる限り対応をしている。	ホームの協力病院以外をかかりつけ医としている入居者であっても入居者や家族の希望を尊重した受診を支援している。家族が入居者の受診に同行するようなケースであっても、感染症予防の観点から現在は職員が受診に同行し配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護、協力病院と連携し、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーで情報を提供している。入院中もご家族や医療機関に状況を確認し、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取り介護に関する指針を用いて説明し同意を得ている。入居者様ご家族様の意向を確認し対応方針の共有を図っている。	入居者が重度化した場合や終末期のあり方について、看取りの指針を整備し、入居者及び家族へ入居時に説明し同意を得た上で支援している。週末期には協力医や看護師と連携する体制を整えている。	今後、職員へ終末期や重度化に対応する学びの機会に参加できるよう配慮するとともに、入居者の看取りに際し、職員の不安感、疲労感、喪失感などのストレスケアにも組織的に取り組むことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時にAEDの研修を実施したが、今年度は実施していない。実践力を身につける為に定期的に訓練を行うことを検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施している。参加できなかった職員に対しては訓練実施報告書をもとに伝達講習を行っている。入居者様の情報を集約した名札を作成し有事に備えている。	年2回、消防計画に基づいた避難訓練を実施している。コロナ感染症予防の観点から、所轄の消防署へ相談し、eラーニングを活用した消防に関する動画を視聴し、現状に即した消防訓練を実施することで職員の防災意識を高めている。	昨今の自然災害の増加傾向を踏まえ、地震や風水害といった自然災害を想定した訓練を実施するとともに地域との協力体制づくりが期待される。また、自然災害に備え、備蓄品一覧には消費期限を明記することが望まれる。避難先で円滑に入居者情報を把握できるよう、緊急時に持ち出すものとして入居者情報一覧表（全身写真、介護保険証、医療保険証、処方箋の写し等）を整備することが望ましい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけたり、不快感を与える言葉に注意して言葉かけを行っている。プライバシー保護マニュアルを作成、周知徹底してている。	職員は入居者に対して人生の先輩であること意識するよう努め、入居者一人ひとりを敬い、自尊心を傷つけないような言葉かけで支援している。入居者の誇りやプライバシー確保について話し合いや振り返りを行いながら、方言も大切にしつつ、入居者一人ひとりに合わせたコミュニケーションを図り実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えや思いを聞き入れ、出来る限り自己決定の場面が提供できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどへの参加は、入居者様の意思を尊重している。入居者様の体調や気分を把握し希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や好みを大切にし、清潔を心がけて季節や場所に適した身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご提供いただいたとうもろこしやらっきょうの皮むきを職員と一緒に行い楽しみながら季節を感じて頂いている。	食事は、炊飯以外は委託している配食業者から取り寄せ、食事を湯煎で温めて提供している。季節感のある料理や地域の名物料理が提供されており、入居者から好評を得ている。入居者はお茶の葉をティーパックに詰めることや、近くの住民から差し入れられたトウモロコシやラッキョウの皮むきを職員と一緒に行うなど楽ししみながら食事を摂られている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、記録に残し職員間で情報を共有している。数種類の飲み物を用意し好みのものを提供、水分不足が起こらないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、入居者様の力量に応じて、見守りや介助を行っている。協力歯科医と連携し、助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について記録を残し、一人ひとりの間隔や兆候など排泄パターンの把握に努めている。可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	職員は排泄チェック表に入居者一人ひとりの排泄を記録し、個別に排泄パターンを把握することで、適切にトイレへの誘導を行い、排泄の失敗を減らしている。日中は可能な限りトイレでの排泄に取り組み、オムツからリハビリパンツに移行し排泄の自立に繋げるなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や身体を動かすために集団体操を行ったり、自然排便を促すための支援を行っいる。排便困難な方は、センナ茶を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定は立てているが、入居者様の様子やタイミング、意思を確認し柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本とし、必要があれば入浴日以外でも入浴できる体制を整えている。時間帯（午前、午後）の要望にも沿えるようにしている。特殊浴槽や一人用の浴槽を設置し、入居者の心身機能の状態に応じて支援している。入浴を拒否する方には無理強いせず柔軟に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類、室温等を調整し、一人ひとりの生活リズムに配慮した支援を行っている。日中も状態により休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をいつでも確認できるよう保管し、ミスがないようマニュアルに沿って支援を行っている。受診時等に、日々の様子を主治医に伝え、お薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力や性格を把握し、得意な分野で力を発揮でるように、お手伝い等をお願いし、役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、可能な範囲で近隣の散歩や公園への外出など支援を行っている。	コロナ禍の為、遠方に出かけたり、買い物に出かけることは行っていない。感染症に留意しながら入居者一人ひとりの要望に沿えるようできる範囲でホーム周辺を散歩したり、近くの神社に参拝に出かける等、戸外に出かけられる支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持されている方もいるが、ご家族様から当事業所で現金を少額を預り、理容代やご希望される物を購入できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等から電話があった場合は、子機を使用し居室で会話できるよう配慮している。個人で携帯電話を所持されている方は、自由にご使用され、必要時に支援を行っている。手紙やはがきの投函等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を感じられる飾り付けをしている。リビングからフロアをおおかた見渡せる造りになっており、生活感のある空間を提供している。	ホームの共用スペースの壁には、折り紙でできた梅や桜の花などを飾り、ホーム内でも季節を感じられるよう工夫している。入居者が過ごしやすいようソファーの位置を変更するなど入居者が居心地よく過ごせる配慮を行っている。コロナ感染症対策に留意し、空気清浄機・加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーを、玄関ホールや廊下には椅子を設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせる環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた物や写真等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう支援している。馴染みの物の持ち込みがない場合でも入居者様の意向を確認しながら、その人らしく過ごせる居室環境づくりに取り組んでいる。	居室には家族の写真、ソファー、ぬいぐるみ、金庫、布団など、入居者にとって馴染みの物を持ち込まれている。入居者が移動しやすいよう動線を確保しつつ、家具類の配置は入居者と家族の希望に応じて配置するなど、入居者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内は、バリアフリーになっている。介助バーや手すりの設置など、入居者様が安心安全に自立した生活が送れる環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名　2階

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念に基づいた支援を行っている。入居者様最優先の仕事をすることで、入居者様ご家族様が利用して良かったと喜んで頂けるよう実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流は困難であったが、神社への参拝や散歩中には挨拶を交わしている。地域の方々から季節の果物などの差し入れを頂くこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面配布ではあるが、委員の方々から意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告は、メールやFAXで行っているが、相談事は、窓口に出向きアドバイスを受けるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	eラーニングを活用した学習の他に、身体拘束廃止委員会による研修会を年2回以上実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止のための指針を作成し、令和3年10月1日より「虐待防止委員会」を組成、身体拘束廃止委員会と一体的に活動している。虐待の芽チェックを定期的に行ない、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ活用する機会はないが、今後、外部の研修会に参加し、学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に十分な説明を行っている。リスク等にもご理解・ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置しているが、あまり投函がないのが現状。入居者様やご家族様が気兼ねなく意見を言える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表が参加できない時は、管理者が報告を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し代表者は、職員個々の状況を把握している。フィードバック面接により、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関する情報を提供し、外部研修への積極的な参加を促している。OJTとoff-JTを連携させ育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、勉強会や相互訪問等の活動は出来ていない。電話等での情報交換により、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を確認し、入居時に本人様から不安や要望をお伺いしている。ゆっくりと傾聴させて頂き、安心して生活できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様から不安や要望をお伺いしている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の思い、状況等を確認し困っていることや不安なことに対して、できることは速やかに実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われる中でも、入居者様に関心を寄せながら一緒に過ごすことを心掛けている。入居者様に洗濯物たたみなどの役割を担って頂くことにより、お互い感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で制限がある中でも、電話や面会時に、入居者様の様子をきめ細かく伝えるなど一緒に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所への外出は控えている。県内の感染状況にもよるが、ご家族様や知人となるべく関われるよう、面会への配慮は行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を踏まえ、入居者様同士の関係が円滑になるために食堂の席を配慮したり、会話などの橋渡し、時には、ぶつかり合いを回避したり、仲を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、相談や支援に応じる姿勢を示しているが、関係の継続はできていない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と馴染みの関係を築き、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日々の行動や表現から思いを汲み取り、入居者様の視点に立って話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のＢ－３シート（私の暮らし方シート）などを使用して情報を収集し、馴染みの暮らし方に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、排泄状況等により健康状態を把握している。1日の過ごし方を観察し、心身の小さな変化も見逃さないよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けるための個別の介護計画を作成するよう努めているが、まだまだ勉強不足である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記入し、職員間で情報を共有しているが、PDCAサイクルの重要性に対する理解は、まだまだ不十分と感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物支援等、一人ひとりに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や馴染みの店でのふれあいボランティアの受入れ等は、コロナ禍で実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族様に対し、協力病院へ変更することを説明し同意を得ている。その他の要望等に対してできる限り対応をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護、協力病院と連携し、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーで情報を提供している。入院中もご家族や医療機関に状況を確認し、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取り介護に関する指針を用いて説明し同意を得ている。入居者様ご家族様の意向を確認し対応方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時にAEDの研修を実施したが、今年度は実施していない。実践力を身につける為に定期的に訓練を行うことを検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施している。参加できなかった職員に対しては訓練実施報告書をもとに伝達講習を行っている。入居者様の情報を集約した名札を作成し有事に備えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけたり、不快感を与える言葉に注意して言葉かけを行っている。プライバシー保護マニュアルを作成、周知徹底してている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えや思いを聞き入れ、出来る限り自己決定の場面が提供できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどへの参加は、入居者様の意思を尊重している。入居者様の体調や気分を把握し希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や好みを大切にし、清潔を心がけて季節や場所に適した身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご提供いただいたとうもろこしやらっきょうの皮むきを職員と一緒に行い楽しみながら季節を感じて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、記録に残し職員間で情報を共有している。数種類の飲み物を用意し好みのものを提供、水分不足が起こらないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、入居者様の力量に応じて、見守りや介助を行っている。協力歯科医と連携し、助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について記録を残し、一人ひとりの間隔や兆候など排泄パターンの把握に努めている。可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や身体を動かすために集団体操を行ったり、自然排便を促すための支援を行っいる。排便困難な方は、センナ茶を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定は立てているが、入居者様の様子やタイミング、意思を確認し柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類、室温等を調整し、一人ひとりの生活リズムに配慮した支援を行っている。日中も状態により休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をいつでも確認できるよう保管し、ミスがないようマニュアルに沿って支援を行っている。受診時等に、日々の様子を主治医に伝え、お薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力や性格を把握し、得意な分野で力を発揮でるように、お手伝い等をお願いし、役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、可能な範囲で近隣の散歩や公園への外出など支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持されている方もいるが、ご家族様から当事業所で現金を少額を預り、理容代やご希望される物を購入できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等から電話があった場合は、子機を使用し居室で会話できるよう配慮している。個人で携帯電話を所持されている方は、自由にご使用され、必要時に支援を行っている。手紙やはがきの投函等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を感じられる飾り付けをしている。リビングからフロアをおおかた見渡せる造りになっており、生活感のある空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーを、玄関ホールや廊下には椅子を設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせる環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた物や写真等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう支援している。馴染みの物の持ち込みがない場合でも入居者様の意向を確認しながら、その人らしく過ごせる居室環境づくりに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内は、バリアフリーになっている。介助バーや手すりの設置など、入居者様が安心安全に自立した生活が送れる環境づくりに努めている。		